

og  
Rō  
Ak

2023年6月 文京区立森鷗外記念館編集・発行(年4回発行)

# 文京区立森鷗外記念館NEWS

## No.43



森茉莉（左）16、17歳頃、（右）54歳頃

巻頭コラム「牧野富太郎、文京区、そして森鷗外」田中純子(練馬区立牧野記念庭園学芸員)／展示報告／展示のお知らせ コレクション展「生誕120年 森茉莉～幸福な日々、書くという幸福～」／展示会場から／コラム「鷗外文庫—誕生から今日まで—」坂井修一(東京大学附属図書館長・教授)／活動報告／カフェ便り／ボランティア活動ノート／編集後記／これからの催しもの

# 牧野富太郎、文京区、そして森鷗外

田中純子（練馬区立牧野記念庭園学芸員）

植物学者牧野富太郎（1862-1957）は、高知県出身、初めて東京に行ったのが数えて二十歳のとき。その頃から好きな植物を研究しようと志し、郷里の植物調査に取り組む。やがて、日本の植物相を明らかにして植物誌をつくることを目指して奮闘していく。明治26年に帝国大学（現東京大学）理科学院植物学教室の助手のポストを得、明治45年に講師となつた。昭和14（1939）年には、明治26年から大正8年に渋谷に引っ越すまで47年間務めたことになる。

明治26年から大正8年に渋谷に引っ越すまで47年間務めたことになる。明治45年に講師となつた。昭和14（1939）年には、明治26年から大正8年に渋谷に引っ越すまで47年間務めたことになる。



牧野富太郎（38歳） 東京帝國大學理科学院植物學教室にて  
練馬區立牧野記念庭園蔵

で、現在の文京区内を30回以上引っ越したという。なるべく職場に近いところに暮らしたいという思いがあったのである。植物教室は、はじめ本郷にあつてその後小石川植物園に移つた。

牧野は明治40（1907）年から東京帝室博物館（現東京国立博物館）天産課で植物分類調査の嘱託として仕事をすることになった。同館は動植物および鉱物の調査機関な

いし展示施設としての由来をもち、その敷地内には当時各地から来た様々な植物が植えられていたことは想像にかたくない。

それは牧野にとって大きな喜びであり興味が尽きないものであつたろう。サクラもその一つであった。

上野にあるこの博物館から小石川植物園に行く道の途上に文京区立森鷗外記念館がある。それは、かつて鷗外が暮らした觀潮樓の跡地に建つ。博物館を出て東京藝術大学を通り谷中靈園を右手に見ながら三崎坂を下りて、団子坂を上り切ったところに森鷗外記念館はあつて、そこから大観音通りを進んで白山に出て蓮華寺坂、御殿坂を経て植物園に着く。牧野もこのようなルートを歩いたことがあるのではないかと思う。

さて、鷗外と牧野の交流は、『増訂草木図説』第1輯のオランダダンドクの解説に出てくる舌人」という語句の意味を鷗外が牧野に教示したことにはじまると思われる。牧野はその語句を「古人」あるいは「世人」と説明したが、鷗外より「通訳人」であるという指摘があつたことが、同書第4輯・巻末の言に記される。

鷗外の日記には大正2（1913）年に牧

野に「通信す」という記録がある。<sup>②</sup>また牧野が教示してほしいことと、蘭軒の本草の師赤荻由儀の名をどこで見たならば知らせたいことが書かれ。<sup>③</sup>

『伊澤蘭軒』には「その二百九十四・二百九十五に牧野富太郎が登場する。すなわち、漢詩に歌われる「桺」は何の樹木かと疑問に思つた鷗外が調べたところ「桺」が得られた。しかし今度は、この「桺」が何の木であるかが分からなくて「ラビリントス」に入り込んだ。

しまつたため「牧野富太郎さんを敲いた」。それについて牧野は教える勞をいとわず、

「桺」は生きさげ、アカメガシワは普通に「桺」は生きさげ、アカメガシワは普通にみづめと答え、これにより問題が解決したのであつた。さらに鷗外は、今の博物学において漢名・和名の詮議は必要のないものとされるが、漢詩や万葉集を読む時に何の植物、何の動物であるかを知りざるをえず、そうした古典の物名を考究するにあたり、動植物の和漢名を網羅した辞書の編纂が必要であるという意見を述べた。<sup>④</sup>

それによればアズサは古い呼称で、残つて鷗外からの依頼は、牧野の側にも記録がある。それは『植物研究雑誌』（第3巻第5号 1926年）に掲載した、各地で使われる方言を知らせてほしいと読者に呼びかけられた記事「懇二植物方言ノ通知ヲ望ム」に見られる。本記事のなかでこの一件が、方言調査の重要性を示す一例として紹介された。

江戸後期の医者・本草学者飯沼惣著『草木図説』に牧野が解説を補足し、部分図を加えて明治40年から大正2年にかけて出版した4冊からなる本。

- (1) 江戸後期の医者・本草学者飯沼惣著『草木図説』に牧野が解説を補足し、部分図を加えて明治40年から大正2年にかけて出版した4冊からなる本。
- (2) 『鷗外全集 第35巻』（1975年）p.581
- (3) 『鷗外全集 第36巻』（1975年）p.411
- (4) 『鷗外歴史文学集 第9巻』（岩波書店 2002年）pp.6-13
- (5) この調査は、白井光太郎（1863-1932）植物病理学者・本草学者による。
- (6) 田中伸幸・山本正江編『牧野富太郎植物採集行動録 明治・大正編』（高知県立牧野植物園 2004年）p.115

## 特別展「鷗外の食」

2023年4月8日(土)～7月9日(日)

本展では、鷗外の食に関するエピソードの中から鷗外の食生活と食体験に着目し、「森家の食卓」「鷗外の外食」の二章立てで構成しました。

「森家の食卓」では、鷗外の著作や家族、友人たちの回想と当時の食文化を示す資料を紐づけることで、食風景を思い浮かべてもらえるような展示を心掛けました。

また、森家のおもてなし料理の「レシピ」を一部翻訳、紹介しました。再現料理も試み、会期後半には写真パネルを展示室に掲出しました。再現の様子は次号でご報告します。

また、森家の食卓を紹介しました。再現料理も試み、会期後半には写真パネルを展示室に掲出しました。再現の様子は次号でご報告します。

鷗外は会合や宴席のため、多くの料理店に足を運んでいます。「鷗外の外食」では、鷗外が訪れた7店と特別な食体験として御陪食を取り上げました。日記には店名が記されている程度ですが、鷗外はその時の出来事を小説の題材にすることもありました。鷗外の外食体験を知ることで、鷗外の作品に少し近づくことができるかもしれません。

本展出品資料の一つ、「膳部之事」（東京大学総合図書館蔵）は底本未詳の鷗外自筆写本ですが、本展食文化史監修の江原絢子氏（東京家政学院大学名譽教授）の協力により、宮内省書陵部に酷似した写本（江戸一期）の存在を確認しました。鷗外がこの写本を閲覧した証拠ではなく、「膳部之事」は底本未詳であることに変わりありませんが、調査の成果として本展で紹介することができました。

本展をとおして、『水沫集』には、鷗外がドイツ留学中に触れた優れた短篇小説集を、自ら編もうという思いが込められているように感じました。初版刊行時30歳、縮刷版刊行時54歳、24年もの年月を傾けた『水沫集』は、鷗外にとって若き日の情熱が詰まつた記念碑的な作品集だったのです。

最後になりましたが、本展を開催するにあたり、ご協力を賜りました関係者の皆さまに、厚く御礼申しあげます。

展覧会会期中の関連講演会は左記のとおりです。

○「文京区をめぐる作家の〈食〉と文学」

講師：大本泉氏（仙台百合女子大学教授）

日時：6月10日(土) 14時～15時30分

○「近代「食」散歩～明治・大正期の料理書をめぐつて～」

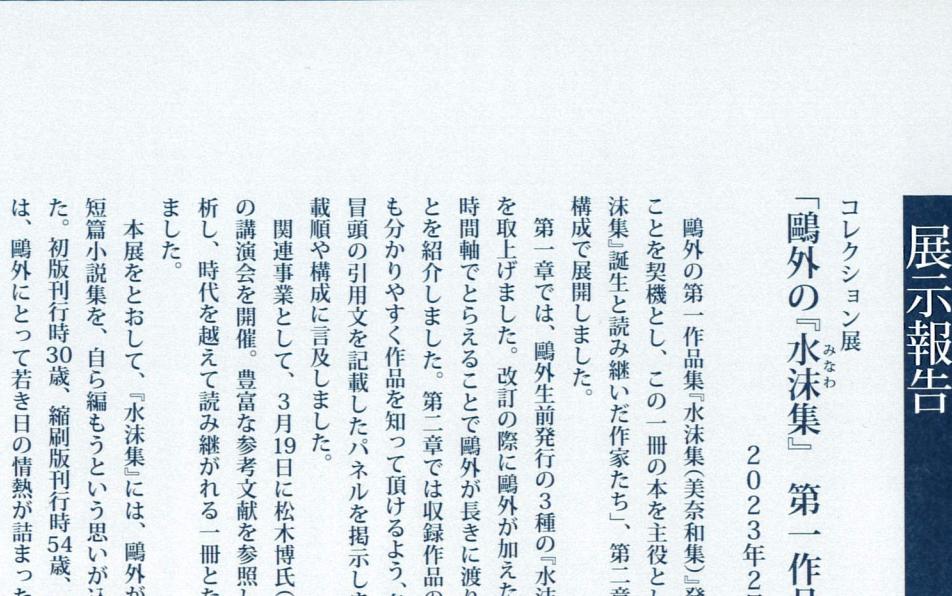
講師：東四柳祥子氏（梅花女子大学教授）

日時：7月1日(土) 14時～15時30分



撮影：カロワーカス  
第二展示室 第二章「鷗外の外食」。  
鷗外の小説の舞台になった店、家族でよく訪れた店を中心におく。

第二展示室 第二章「鷗外の外食」。  
鷗外の小説の舞台になった店、家族でよく訪れた店を中心におく。



第一展示室 第一章「森家の食卓」。  
壁面には家族の回想をスライド上映した  
導入展示室 鴨外自らが描いた絵と箸やカイゼル髭をモチーフにしたロゴをあしらったメインビジュアル





# これからのお催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。  
詳細は、チラシやHPをご覧いただくか、当館までお問い合わせください。体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。  
★応募多数の場合抽選とさせていただきます。★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

7月6日(木)、7日(金) 11:00 ~ 17:00  
**七タイイベント ◎**  
会場: 当館前、エントランス 料金: 無料 期間中、エントランスに短冊作成コーナーを設置します。

7月9日(日) 9:00(早朝開館) ~ 17:30(最終入館)  
**鷗外忌記念行事 ◎**  
鷗外の命日(7月9日)に展覧会を観覧された方に、オリジナルしおりをプレゼントします。

7月23日(日) 10:00 ~ 17:30(最終入館)  
文の京ワークショップ/ふみの日イベント  
**「ポストカードプレゼント」◎**  
展覧会を観覧された方に、オリジナルポストカードをプレゼント。

8月5日(土) 10:00 ~ 17:30(最終入館)  
**文京区民無料観覧日 ◎**

文京区在住・在学・在勤の方は無料で展覧会を観覧いただけます。住所が記載されている身分証明書をご提示ください。

8月26日(土) 14:00 ~ 15:30  
展示関連講演会  
**「千年に一度の人、森茉莉の世界」**

講師: 島内裕子氏(放送大学教養学部教授)  
会場: 講座室 定員: 50名 料金: 無料※要展示観覧券(半券可)  
申込締切: 8月10日(木)必着

9月23日(土・祝)、30日(土) 10:30 ~ 12:00  
新観潮樓歌会  
**「森鷗外記念館で論語塾」(全2回)**

講師: 安岡定子氏(論語塾講師) 会場: 講座室 定員: 45名  
料金: 3000円(2回分) 申込締切: 9月8日(金)必着  
初めて論語を学ぶ方向けの連続講座、全国藩校サミット文京大会の開催に合わせた企画です。

7月8日(土) 14:00 ~ 15:30  
鷗外忌記念講演会  
**「千住時代の森林太郎(鷗外) —町医者として過ごした煩悶の日々」**

講師: 山崎光夫氏(作家) 会場: 講座室 定員: 45名  
料金: 1000円 申込締切: 6月23日(金)必着  
青年時代、鷗外は父の診療所を手伝っていました。町医者としての診療体験はその後の鷗外の人生にどのような影響を与えたのか、『鷗外青春診療録』の作者である山崎光夫氏に語っていただきます。

8月5日(土) 15:00 ~ 16:00  
夏のジュニア講座  
**「文豪だって不安だった! 鷗外と考える、先の見えない時代の歩きかた」**

講師: 出口智之氏(東京大学准教授) 会場: 講座室 定員: 45名  
料金: 無料 申込締切: 7月20日(木)必着  
中学生対象講座。鷗外は先の見えない時代をどう歩き、自分の将来をどう決めようとしたかを考えます。※メールのみでの受付です。

8月19日(土) 11:00 ~ (30分程度)  
**「夏の子ども向けギャラリートーク」◎**  
会場: 展示室1 小学4年生以上対象。展示室にて当館学芸員と共に鷗外の生涯(常設展示)をめぐります。高校生以上の方は当日の展示観覧券が必要です。

9月2日(土) 18:30 ~ 19:45  
朗読会「生誕120年・森茉莉の世界」

講師: 渡邊あゆみ氏(NHKエグゼクティブ・アナウンサー) 会場: エントランス  
定員: 60名 料金: 1500円 申込締切: 8月19日(土)必着  
父・鷗外の思い出を綴ったエッセイを渡邊あゆみ氏に朗読いただきます。

9月23日(土・祝) 11:00 ~ 17:00  
**文の京ワークショップ/ふみの日イベント「切手アート」◎**  
古切手を貼って自分だけのしおりやカードを作ります。

## ◆上記イベントの申込方法◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号・返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。

②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

## 交通案内



### 電車をご利用の場合

- 東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- 東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- 都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

### バスをご利用の場合

- 都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
- 都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
- B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分

※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511

URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00 ~ 18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、年末年始(12月29日~1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

印刷物番号 D0123006



文京区立  
**森鷗外記念館**  
Mori Ogai Memorial Museum